

# アラウンドワールド (AROUND A WORLD)

作・猿橋 勇人

キャスト センタ

トオチヤン

カアチヤン

タンナカ

キヤクイチ

オキヤク

## プロローグ

舞台、男女二人（男：キヤクイチ・女：オキヤク）。

あの子、ちよつと休まない？

うん。私も疲れた。もう足パンパン。

ふくらはぎがバカになってるよ。

バカになったふくらはぎは歩き方を忘れちゃうみたい。

あれだけウインドウショッピングしたんだ。疲れて当然だよ。

うん。ちよつと張り切りすぎた。

別にウインドウショッピングじゃなくたってよかったのに。

どういうこと？

いや、欲しいものがあるなら買ったっていいんだよ。目の前のウインドウなんか思いつきりガシャーンって割っちゃってさ。

それはダメでしょ。

なんて言うかさ、それくらい感じでもいいんだよ。ガツシヤンガツシヤン割っちゃってさ、「アレ欲しいコレ欲しい」って言うってくれたって全然構わないんだよ。俺だってそれなりに稼いでるわけだし。

でも…

遠慮するなって。俺たちそういう関係でもないだろう。

うん。

ほら、あそこに座ってちよつと休もう。

うん。

男女、ベンチに座る。

男、空を見上げる。

男

今日は天気がいいなあ。

舞台、クリーニング店。

カウンターで電話帳を見ているのは、カアチャン。

アイロンをかけているのはトオチャン。

トオチャンの近くには「営業中」と書かれた立て看板。

タライと洗濯板で洗濯をしているのはセンタ。

タライはあと二つあり、一つは洗濯前、もう一つは

洗濯の終わった衣類が入っている。

物干し竿には洗濯物がかけられている。

アイロン台の近くにはイスがある。

離れたところにはベンチがあり、そこには男女が座っているが、照明がぼんやり当たっているだけで、はっきりとは見えない。

トオチャン

もっと早くできないのか。たまってるぞ。

センタ

分かってるよトオチャン。でもしつこいんだよ汚れが。

トオチャン

力が足りないんだ。

センタ

けっこう力入れてるよ。

トオチャン

その力じゃない。むしろ力はいらないだ。

センタ

どっちなんだよ。

トオチャン

お前はまだまだ未熟ってことさ。

センタ

分かってるよ。

トオチャン

あのな、未熟ってことは「熟してない」ってことなんだぞ。

センタ

だから分かってるって。

トオチャン

熟してないってことはお前アレだぞ。

センタ

アレって何だよ。

トオチャン

知らないよ。

センタ

じゃあ言わないでよ。

カアチャン

(電話がつながり) あっ、もしもしタンナカさん？いつも

お世話になってます。クリーニングのミタライです。ありがとうございます。あの、おとといお預かりしたドレスなんですけれども、クリーニング終わりましたので、都合のよろしいときにお越しく下さい。ええ、よろしくお願いいたします。…ああ、あの醤油のシミですか？ドレスに穴が開くほどしっかり洗濯いたしましたので、おかげですわね、地裏と大きな穴が開きましたよ。その穴を覗くとですね、地平線に浮かぶ真っ赤な夕日がハッキリと見えるんですよ。フフフフフフ：ウソですよ。クリーニングジョークですよ。いつもの。醤油のシミもしっかり落としておきましたので、ええ、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。失礼します。(電話を切り) ねえ、センタ。

センタ

何？カアチャン。

カアチャン

今日もいい天気ね。

センタ

(口だけ) そうだね。

カアチャン

全然伝わってこないわね。

センタ 何が。  
カアチャン なんているのかしら。「ああ、今日もほんとにいい天気だね。これだけ天気がいいと逆に腹立ってくるよねカアチャン」  
みたいな感情がセンタから全然伝わってこないのよ。いつもなら伝わってくるのに。

センタ 伝えた覚えはないよ。

カアチャン 「逆に」の意味が分からないわよセンタ。

センタ だから伝えてないって。

カアチャン ほらセンタ、ちよつと手を止めて。

センタ (洗濯をやめて) こんなにたまってるのに。

カアチャン (空を見上げ) ほら、いい天気でしょ？

センタ (空を見上げ) まあ、確かにいい天気だね。

カアチャン 逆に腹立ってくるでしょ？

センタ それは無いけど。

カアチャン ねえ知ってる？

センタ 何？

カアチャン 空って、一つなのよ。

センタ 一つ？

カアチャン そう、一つなの。どこまでもどこまでもつながっているの。

センタ 今日はどこもかしこも雲ひとつない青空よ。なんてロマンスティックなのかしら。

カアチャン、ロマンはスティックじゃないよ。それを言うならロマンティック。

センタ 何言ってるの。ロマンティックはロマンティック、ロマンスティックはロマンスティックよ。

センタ え、別物なの？

カアチャン まあ、別物っていうか別腹よね。

センタ お菓子みたいに言わないでよ。今日もカアチャンは調子いいみただね。

カアチャン そんなことないわよ。私はいつもこんな感じよ。センタ今日体の調子悪いんじゃないの？救急車呼ぶ？

センタ 呼ばなくていいよ。

カアチャン 救急車呼んでほしいみたいなの顔してるじゃない。

センタ してないって。

カアチャン 救急車みたいな顔して。

センタ どんな顔だよ。

カアチャン 横から見たらそうでもないけど。

センタ どこから見てもそうでもないよ。やっぱりカアチャンは今日も絶好調だね。

カアチャン そんなことないわよ。私はいつもうなぎのぼりよ。基本的には。

センタ それを世間では絶好調って言うみたいよ。

カアチャン あーあ、こんな日は仕事なんてやめちゃってみんなでピクニックなんてしたいわね。

センタ ダメだよカアチャン。天気のいい日が俺たちの仕事日和。

クリーニング日和なんだから。

カアチャン ねえトオチャン、ダメ？

トオチャン ダメだ。

カアチャン ほんとにダメ？

トオチャン 何回も言わせるな。まあ確かに、こんなに天気がいい日は

ちよつと広めの公園でピクニックでもしたいところだが、  
こういう日こそ俺たちは仕事をしなければならぬし、こ  
ういう日だからこそ、俺は仕事がしたい。逆に仕事がした  
い。

センタ 「逆に」の意味が分からないよトオチャン。

カアチャン 分かるわ。

センタ 分かるんだ。

カアチャン 全部分かるわ。

センタ 全部？

トオチャン ほら、センタもカアチャンも、仕事仕事。

センタ・カアチャン はい。

センタ、カアチャン、仕事に戻る。

センタ、洗濯をしながら一人語り。

センタ

雲ひとつない青空の下、ゴシゴシと洗い続けるこの手には  
さわやかな風が吹き、その風は、いざれ誰かの頬をなでる  
だろう。まじりつけない風、誰一人傷付けない、優しい  
風。俺は風を感じながら…

カアチャン (途中で遮り) あっ、そろそろ休憩時間よ。

センタ カアチャン、今俺のいいところなんだけど。

カアチャン ほら、みんなで新発売のロマンスティック食べましょ。

センタ お菓子だったんだ。

トオチャン じゃあカアチャン、お茶買ってきてくれ。

カアチャン はい。

カアチャン、お茶を買いに。

トオチャン 今日平和だな。いいことだ。

センタ (一人語り) こうして、いつも通りに時間は過ぎていく。

青空の下、トオチャン、カアチャンと一緒に過ごすこの時  
間は、俺にとって何より…

カアチャン (途中で遮り) あれ？お茶って冷たいのでいい？

センタ カアチャン。

トオチャン うん。冷たいのでいいよ。

カアチャン センタはぬるいのでいいわよね？

センタ 自動販売機に「ぬるい」ってボタンないでしょ。俺も冷た

いやっ。

カアチャン はい。

カアチャン、お茶を買いに。  
休憩時間。

ベンチ座っていた男女が会話を始める。

キヤクイチ　なんかアレだよね。

オキヤク　なんかアレだよ。

キヤクイチ　なんて言うのかなあ。

オキヤク　なんて言うのかしら。

キヤクイチ　これはほんとに演劇なのか？

オキヤク　これはほんとに演劇なの？

キヤクイチ　なんか全体的に設定が甘いよね。

オキヤク　タライで洗濯だなんて、いつの時代の話？

キヤクイチ　それもそうだけど、ありえないよね。

オキヤク　そうそう。何よ。青空の下のクリーニング店って。

キヤクイチ　雨の日はどうするんだ？

カアチャン　お待たせ。(キヤクイチ・オキヤクの会話を意識せずに)そ

ういえば、明日は天気が崩れるらしいわよ。

キヤクイチ　どうするんだ。

センタ　じゃあ、明日は休みになるね。

オキヤク　やっぱり休むのね。

キヤクイチ　冬はどうするんだろう。

オキヤク　まさか冬季休業ってことはないわよね。

キヤクイチ　それはあまりにも幼稚な発想だよ。

トオチャン　今のうちにしつかり稼いでおかないとな。

キヤクイチ　まさか。

センタ　そうだね。冬になると長い休みに入っちゃうから。

オキヤク　幼稚だよ。幼稚な発想だよ。

キヤクイチ　もっと設定をしつかり考えろよ。

オキヤク　私は認めないわよ。これが演劇だなんて。演劇はもっと緻

密に計算された芸術なんだから。

キヤクイチ　そうそう、芸術なんだよ。

オキヤク　芸術ってすごいんだから。

キヤクイチ　芸術ってすごいんだぞ。

オキヤク　ほんとにすごいのよ。

キヤクイチ　ほんとにすごいんだぞ。

オキヤク　キヤクイチ、ここはひとつ芸術の何がすごいのかってこと

をみんなにバシッと説明してあげてよ。

キヤクイチ　え？

オキヤク　キヤクイチなら説明できるわよね。あれだけすごいすごい

って言ってたんだから。

キヤクイチ　いや、あの。

オキヤク　ねえキヤクイチ、芸術って、何がすごいのか？ねえ。

キヤクイチ　……

カアチャン　なんか、日陰のほうに会話の途切れたカップルがいるよう

な気がするんだけど、気のせい？

トオチヤン 俺もさつきから気になつていたんだよ。(ベンチに向かつて)  
そんなところで黙ってないで、こつちに來たらどうですか？

キヤクイチ・オキヤク え？

トオチヤン そつちは暗いでしょう。こつちはお日さまたっぷりで暖かいですよ。

キヤクイチ いや、僕たちは：

オキヤク こつちのほうが居心地いいんで。

カアチヤン そんな遠慮しなくていいんですよ。ほら、一緒にロマンス

ティック食べましょ。センタ、いいわよね？

センタ まあ、別にいいけど。

トオチヤン ほらほら、こつちで一緒に休憩しましょう。

キヤクイチ ；じゃあ、ちよつとだけ。行くぞ、オキヤク。

オキヤク うん。

キヤクイチ・オキヤク、クリーニング店へ。

カアチヤン、二人をイスに座るように促す。

二人、そこに座る。

トオチヤン カアチヤン、お茶買ってきてくれ。冷たいのでいいかな？

キヤクイチ いえいえ、僕たちは：

オキヤク そこまで気使ってもらわなくても：

カアチヤン いいんですよ。せつかくの出会いなんですもの。

キヤクイチ じゃあ、せつかくなんです。

オキヤク ごちそうになります。

カアチヤン 今買ってきますね。

カアチヤン、お茶を買いに。

トオチヤン で、我々のどこが甘いのかな？

キヤクイチ え？いや、別にそんなこと、な？

オキヤク あ、はい、全然そんなこと。

トオチヤン どこが甘いと聞いているんだ！

キヤクイチ・オキヤク ごめんなさい(深々と頭を下げる)。

センタ トオチヤン。

トオチヤン なんてな。お二人さん、顔を上げて。

二人、恐る恐る顔を上げる。

トオチヤン お二人さんの言うように、甘いんだよ。

キヤクイチ・オキヤク え？

トオチヤン な？センタ。

センタ まあ、そう言われても仕方ないかな。

トオチヤン ありえないだろ？青空の下のクリーニング店って。しかも

今どきタライで洗濯するなんてな。

キヤクイチ はい。  
トオチヤン 雨が降ったら休みにするし、冬は冬季休業だ。昔からそうしてる。もちろん、家では洗濯機を使っているよ。ドラム式の。

キヤクイチ そうなんですか。

トオチヤン 便利だからね。ドラム式は。

オキヤク こんなこと聞くのもアレなんですけど、これで生活成り立つんですか？

キヤクイチ おい、ストレートすぎるぞ。

オキヤク だって：

カアチヤン (帰ってきて) 十五代目よ。はい、お茶。

キヤクイチ あ、ありがとうございます…十五代目？

カアチヤン ええ。センタはこの仕事を継いだ十五代目。

トオチヤン 先祖代々この仕事一本でやってるんだ。

センタ まあ、そんな感じですよ。

オキヤク 歴史長いんですね。

トオチヤン もちろん生活は成り立ってるよ。ご心配なく。

キヤクイチ そうなんですか。

カアチヤン (キヤクイチの服を見て) あれ？あなた、これシミなんじゃないの？

キヤクイチの服に茶色いシミが付いている。

キヤクイチ あ、これですか？いや、けっこう前にソースこぼしちゃったんですよ。

オキヤク でもお気に入りだからって、ずっと着てるんですよ。

トオチヤン こぼしたときにすぐ洗えばよかったのに。

キヤクイチ そうなんですけどね。そのとき全然気づかなくて。

オキヤク でも、これが俺の一番似合う服だからとか言って、出かけるたびにそれ着てるんですよ。

キヤクイチ いいだろ。まあ、もう落ちないのは分かってるんですけどね。

カアチヤン センタ、どう？

センタ どうかなあ。ちよっと難しそうだけど、ある程度時間もらえれば。

トオチヤン 俺なら五分あれば。

センタ いくらトオチヤンでもそれは無理だよ。でもなんとかかなりそう。

カアチヤン ねえ、私たちにその服預けてみない？

キヤクイチ え？

カアチヤン そのシミ、私たちがなんとかするわ。ね、センタ。

センタ うん。まあ五分じゃ無理だけどね。

カアチヤン さあどうします？今回はお試しすることで、お金はいらないわ。ほんとなら一万円はいただくところだけど。

キヤクイチ 一万円？

オキヤク 高。  
カアチャン それを今回はなんと無料で。初回お試しキャンペーンよ。  
キヤクイチ ほんとに消えるんですか？  
トオチャン 代々これで生活してきたんです。任せてください。センタ、

十五代目の意地、見せるときだぞ。

センタ 大げさだよ。でもまあ、なんとかしますよ。

キヤクイチ じゃあ、お願いします。

オキヤク ちよつと、いいの？怪しいわよ。

キヤクイチ いいじゃんか、タダなんだし。あの、もし消えなかったら？

カアチャン 当店では、汚れを落とせなかった場合、お代はいただきます

せん。また、当店オリジナルのくじ引きがございます。

キヤクイチ くじ引き？

カアチャン そちらにチャレンジしていただきます。

オキヤク それだけ？

カアチャン それだけです。

オキヤク なんか安っぽいわね。

カアチャン ちなみに特賞は百万円です。

オキヤク え？

カアチャン これ、ほんとですよ。これまでに31人の当選者がいらっ

しゃいます。

キヤクイチ 人数がそれなりにリアルだ。

カアチャン さあ、どうします？

キヤクイチ なあ、いいだろ？

オキヤク まあ、そこまで言うんなら、いいじゃないの？

キヤクイチ じゃあ、これお願いします。

キヤクイチ、服を脱ぎ、カアチャンに渡す。

カアチャン あらまあ、いい生地使ってるわね。

キヤクイチ 分かりますか？

カアチャン もちろんよ。あら、裏地の柄もきれいな。これ、レ・ミゼ

ラブル？

キヤクイチ はい？

カアチャン もしかしてあなた知らないの？レ・ミゼラブル。裏返しに

しても着られるタイプの。

センタ あの、多分リバーシブルのことを言ってるんだと思います。

キヤクイチ そうですか…まあ、これはリバーシブ(センタに止められ)

：あ、レ・ミゼラブルではないです。

カアチャン そうなの？でもすっごいシャレオツ。

キヤクイチ あ、どれくらいでできそうですか？

カアチャン センタ、どれくらい？

センタ 早ければ明日にはできますよ。

オキヤク あれ？明日は天気が崩れそうだから休むって。

センタ あ、そうだった。

トオチャン 大丈夫ですよ。明日は快晴です。



オキヤク 何で言い切れるんですか？

トオチャン 長年の勘ですよ。

タンナカ ごめんください。

カアチャン あ、タンナカさん、いらっしやい。

タンナカ お願いしてたドレス、受け取りに来ました。

カアチャン お待ちしておりました。ごめんなさい、ちょっとお待ちくださいね。

タンナカ いいですよ。(キヤクイチ・オキヤクに) どうも。

キヤクイチ あ、どうも；じゃあとりあえず、よろしくお願いします。

オキヤク お願いします。

カアチャン あ、電話番号教えてちようだい。終わったら電話しますから。

キヤクイチ あ、はい。

カアチャン、メモ用紙を渡す。

キヤクイチ、電話番号を書く。

キヤクイチ じゃあ、よろしくお願いします。

カアチャン ありがとうございます。

トオチャン どうもー。

オキヤク (帰りながら) ほんとに大丈夫なの？

キヤクイチ もしかしたら百万円もらえるんだ。いい話だろ。

オキヤク シミが落ちないことも期待してるのね。

キヤクイチ もちろんだよ。

カアチャン ほんとごめんなさいね。(ドレスを取り出して) はい、どうぞ。

タンナカ (ドレスを見て) まあ、なんということでしょう。どうや

つても落ちなかった醤油のシミが、何も無かったかのように

にきれいに消えているじゃありませんか。どうやって落ち

ちなかった醤油のシミが、何も無かったかのようにきれいに

消えているじゃありませんか。

カアチャン これが私たちの仕事ですから。

タンナカ さすがです。はい、一万円。

カアチャン ありがとうございます。またよろしくね。

転換。

トオチャン、立て看板をひっくり返す。そこには「また明日」の

文字。ミタライ家、帰る。

雨が降りだす。

キヤクイチ・オキヤク、傘をさして舞台へ。

キヤクイチ・オキヤク、会話を始める。

キヤクイチ ザンザン降りだね。

オキヤク どこが快晴よ。

9

キヤクイチ あのおヤジの勘、見事に外れたね。まあ、ありがちな展開だけだね。

オキヤク ありがちありがち。

キヤクイチ 想定内だよね。

オキヤク 想定範囲内だわ。

キヤクイチ でも、今日は止みそうにないね。

オキヤク ずっと待ってるのも辛いわね。

キヤクイチ どうする？

オキヤク どうしましょ。

キヤクイチ 俺にはどうにもできない。

オキヤク 私にはできるわよ。

キヤクイチ どうやって？

オキヤク このセリフを加えればいいのよ。こうして、一日が過ぎていった。

雨が一気に止む。

一気に晴れ渡る。

トオチャン・カアチャン・センタ、早送りのように開店準備。準備完了。

キヤクイチ すごい、もう翌日になった。

オキヤク ここぞつてとぎのための裏技よ。

キヤクイチ 何でこんなことできるの？

オキヤク 自分でもよく分からないんだけど、多分、野菜ジュースつ

キヤクイチ ぽいの飲んでるからかな、毎日。

キヤクイチ 野菜ジュースではないんだね。

カアチャン、電話をかける。

キヤクイチの電話が鳴る。

キヤクイチ もしもし。

カアチャン あ、キヤクイチさん？

キヤクイチ そうです。

カアチャン おとといはどうも、クリーニングのミタライです。

キヤクイチ あ、こちらこそ、お茶ありがとうございます。

カアチャン どういたしまして。あっ、お預かりした服なんですけども、

クリーニング終わりましたので、都合よろしいときにお越

しくださいませ。

キヤクイチ はい。今日うかがいます。

カアチャン こんな近い距離で電話するのもおかしいわね。

キヤクイチ そうですね。目が合ってますもんね。

カアチャン テレビ電話みたいね。ひと昔前の。

キヤクイチ そうですね。今うかがいます。

カアチャン どうぞどうぞ。

キヤクイチ 行くぞ、オキヤク。

オキヤク うん。

キヤクイチ・オキヤク、クリーニング店へ。

カアチャン いらっしやいませ。

トオチャン らっしやい。

キヤクイチ どうも。で、どうなりました？

カアチャン ちよっとお待ちくださいね。

カアチャン、奥から服を取り出す。

カアチャン はい、どうぞ。

キヤクイチ

(服を見て) まあ、なんといいことでしょう。あんなにもしつこくこびりついてたソースのシミが、そこに何もなかったかのように見事に消え去っているではありませんか。あんなにもしつこくこびりついてたソースのシミが、そこに何もなかったかのように見事に消え去っているではありませんか。

カアチャン

キヤクイチ

オキヤク

キヤクイチ

言いたくなくても口が勝手に動いちゃうんだよ。これはすごい。

カアチャン

キヤクイチ

カアチャン

センタ

五分では無理でしたけど、預かった日のうちに落とすことができました。

キヤクイチ

センタ

君、すごいね。いや、まだまだですよ。トオチャンならほんとに五分で落とせるシミでした。

トオチャン

センタ

そうだぞ。お前はまだまだ未熟だ。分かっているよ。

トオチャン

センタ

あのな、未熟ってことは「熟してない」ってことなんだぞ。だから分かってるって。

センタ

トオチャン

だから知らないよ。じゃあ言わないでよ。

トオチャン

センタ

言うよ。これからも定期的に言うよ。言わなくていいよ。

キヤクイチ

カアチャン

あ、あの。どうしました？ いや、お金を… 今回はタダって言ったじゃないですか。

キヤクイチ でも：

カアチャン 今度、どうしても落ちない汚れが付いてしまったときは、またいらしてくださいな。そのときは一万円きっちりいただきますから。

キヤクイチ ありがとうございます。ほら、お前も。

オキヤク え？何で？まあ、ありがとうございます。

カアチャン どういたしまして。

トオチャン もう来るなよ。

キヤクイチ ・オキヤク え？

トオチャン もうシミなんて付けないで、大事に着てやれよってことだ。

キヤクイチ ・オキヤク ダンデイ。

カアチャン そうなの。うちのトオチャン、ダンデイなの。

トオチャン カアチャン。

カアチャン トオチャン。

トオチャン カアチャンもダンデイだよ。

カアチャン 嬉しいわトオチャン。それはそれで嬉しいわトオチャン。

トオチャン カアチャン。

カアチャン トオチャン。

トオチャン カアチャン。

カアチャン トオチャン。

トオチャン カアチャン。

カアチャン トオチャン。

キヤクイチ (遮るように) あっ、じゃあ、僕らはこの辺で。

カアチャン またいらっしゃい。ロマンスティック用意してお待ちします。

キヤクイチ また来ます。

カアチャン ありがとうございます。

トオチャン どうもー。

キヤクイチ (帰りながら) ほんとに落ちてる。

オキヤク 何やっても落ちなかったのね。

キヤクイチ これだけきれいに落とされるとまたお願いしなくなっちゃうな。

オキヤク だからといってわざと汚しちやダメよ。一万円もするんだから。

キヤクイチ それはさすがにないよ。一万円は高すぎる。でも払う価値

はある。あの店はすごい。

オキヤク すごいわ。

キヤクイチ ほんとにすごい。

オキヤク ほんとにすごいわ。

### 転換。

クリーニング店、本日の業務終了。

トオチャン、立て看板を「また明日」にして、ミタライ家、帰る。

どこからともなくキヤクイチ・オキヤクの声が聞こえる。

キヤクイチ あの店はすごいな。  
オキヤク あの店はすごいわ。

このやり取りがしばらく続けられる。  
そのやり取りに反応するように衣服が舞台にどんどん投げ  
込まれていく。

次の日、三人、舞台へ。  
三人、その状況に驚きながら、ひとまず準備。  
トオチャン、立て看板を「営業中」に。  
営業開始。

カアチャン (電話を取り) はいクリーニングのミタライです。ええ、  
クリーニングのご依頼ですか？申し訳ございません。た  
だいま大変混み合っておりまして、お渡しまでかなりの  
お時間をいただくことになると思います。申し訳ござい  
ません。またよろしくお願いいたします。  
失礼いたします。(電話を切り) ああ、電話回線の前に私  
の頭がパンクしそう。今日だけで何件の問い合わせが：

言ってるそばから電話が鳴る。

カアチャン、電話に出る。

トオチャン、センタもいっばいいいっばい。

トオチャン いったいどうなってるんだ。センタ、どうしてだ。

センタ 分からないよ。

トオチャン もっと早くできないのか。

センタ これが精いっぱいだよ。トオチャンは？

トオチャン 俺もこれが限界だ。

センタ 俺だけ早くやっても意味無いよそれじゃあ。

トオチャン それもそうなんだけどな。絶対に洗い残しだけはするなよ。

先祖が泣くぞ。

センタ 分かってるよ。

トオチャン こんな初めでだ。

センタ いくら洗っても終わらない。

トオチャン 商売繁盛にも程がある。

センタ いくら洗っても終わらない。

カアチャン (電話を切り) ロマンステイックが食べられない。

タンナカ ごめんください：あれ？今日はとてもお忙しそうで。

カアチャン あらタンナカさんいらっしやい。今日はなんだか引く手あ

またで。また電話だわ。もしもし：

タンナカ センタさん、今クリーニングお願いしたらどれくらいか

りそうですか？

センタ どうですかね。なんせこれだけの服を洗うのは初めてなん

で。

トオチャン 一週間はかかると思いますよ。まあ、タンナカさんはうち

の大事なお得意様ですから。優先させていただきますよ。あら、いいんですか？ごめんなさいね。

タンナカ  
トオチャ  
ン  
タンナカ

いいんですよ。先祖代々お世話になってますからね。腕がいいからですよ。うちのおじいちゃんもおばあちゃんも「この店はいいぞ。逆にアレだぞ」って。私も子供のときからずっと聞かされてましたから。

トオチャ  
ン

今もお変わりないですか？タンナカさんとおじいちゃんもおばあちゃんも。あまり出歩かなくなりましたけど、気持ちだけは今も現役みたいで。まだまだ元気ですよ。

タンナカ

トオチャ  
ン

それは何よりだ。

タンナカ

センタさんも若いのによく頑張ってますね。

センタ

ありがとうございます。

トオチャ  
ン

まだまだですよ。

タンナカ

でも、だいぶ腕上げたんじゃないですか？成長してますよ。そう言っていただけだと私も嬉しいですよ。センタ、もっと頑張るんだぞ。

トオチャ  
ン

分かっているよ。タンナカさん、ありがとうございます。

センタ

こちらこそいつもありがとうございます。はい、いつものドレス。

タンナカ

トオチャ  
ン

毎度ありがとうございます。終わり次第連絡差し上げますよ。

トオチャ  
ン

よろしくお願いします。センタさん、またね。

タンナカ

センタ

はい。

タンナカ

じゃあね。

トオチャ  
ン

どうもー。

カアチャン、電話が終わり、受話器を戻す。

そして、受話器を上げてそのままにする。

トオチャ  
ン

おいおい、それじゃあ電話つながらないだろ。

カアチャ  
ン

だって、これ以上受付したって、お客様に迷惑をかけてしまっただけよ。

センタ

俺もそう思う。俺たちがパンクしたらどうにもならないよ。

トオチャ  
ン

分かった。じゃあ、今たまっているのをある程度終わらせる

カアチャ  
ン

まで、予約は受け付けない。それでいいか？

センタ

いいわ。

カアチャ  
ン

俺も賛成。タンナカさんのドレスはどうする？

センタ

今日洗ってしまおう。タンナカさんは古い付き合いだから

トオチャ  
ン

な。

カアチャ  
ン

そうね。

センタ

分かった。今洗ってるの終わったら早速やるよ。

トオチャ  
ン

そうしてくれ。

カアチャ  
ン

このドレスも歴史長いわよね。

トオチャ  
ン

タンナカ家にとっては大事なドレスだからな。

センタ  
トオチャン  
歴史が長いって割には新品みたいだ。  
昔からそれくらいのカリーニング技術があったってことだ  
ろ。俺たちも気が抜けないな。

センタ  
うん。でも、どこで着るんだらう。

カアチャン  
どこで着るんでしょね。分からないわ。

センタ  
一回も聞いたこと無いからね。

トオチャン  
俺たちは目の前の服を洗うだけだ。どんな汚れもひたすら  
落として、なかったように落としてみせる：それだけだ。

カアチャン  
トオチャン、かっこいい。

トオチャン  
だろ？まあ、じいさんの受け売りだけだな。

カアチャン  
じゃあ、おじいさんも込みで、かっこいい。

トオチャン  
じいさんが聞いてたらきつと喜ぶよ。さ、やるぞやるぞ。

センタ  
センタ。

センタ  
うん。

カアチャン  
じゃあ、私ちよつとお茶買ってくるわね。

トオチャン  
俺は冷たいので。

カアチャン  
センタは沸騰したやつでいいわよね？

センタ  
自動販売機に「煮えたぎる」ってボタンないでしょ。俺も  
冷たいの。

カアチャン  
はーい。

カアチャン、お茶を買いに。

センタ、トオチャン、仕事に戻る。

センタ、一人語り。

センタ  
力が入る。歴史の重さを知るたび、力が入る。歴史の重石  
が俺の両手にのしかかる。潰されまいと俺の両手に力が入  
る。そんなに力はいらない。トオチャンの声が聞こえてく  
る。トオチャンの言葉が耳に張り付く。張り付いた言の葉  
はいつしか俺の体の一部となるだろう。体の一部となって、  
いつしか、俺のすべてとなるのだろうか。

トオチャン  
何をブツブツ言っているんだ。

センタ  
ひとり言だよ。

トオチャン  
長いひとり言だな。

センタ  
そうだね。

トオチャン  
どうだ、順調か？

センタ  
問題なし。いたって順調だよ。

トオチャン  
気をつけるよ。

センタ  
何を？

トオチャン  
順調なときほど気を引き締めろって話だ。よくある説教み  
たいなやつだ。俺もじいさんから飽きるほど聞かされたか  
らな。

センタ  
そうなんだ。

トオチャン  
丁寧にだぞ。

センタ  
うん。

カアチャン (涙を拭いながら) すばらしい。なんてすばらしいの。あなたたち。

トオチャン そんな泣くようなやり取りでもなかっただろう。

センタ 聞いてたのかよ。

カアチャン 聞こえてきたのよ。たまたまよ。はい、お茶。

センタ ありがとう。

カアチャン さて、そろそろ電話の電源入れなきゃ。

トオチャン あれ？受付するのか？

カアチャン 違うの。電源切ってたらお客様とお話できないでしょ。私、

お話好きだから。

センタ でも、予約は断ってよ。

カアチャン そのつもりよ。丁寧にお断りします。

トオチャン じゃあ、カアチャンも仕事に戻って。丁寧にお話するんだぞ。

カアチャン はい。

トオチャン さあ、やるぞやるぞ。

センタ うん。

カアチャン、受話器を戻す。

早速電話がかかってくる。

カアチャン お電話ありがとうございます、クリーニングのミタライです。

転換。

三人、舞台に投げ込まれていた衣類を舞台袖に投げ返す。

トオチャン、立て看板を「また明日」にして、ミタライ家、帰る。

キヤクイチ・オキヤク、舞台へ。

キヤクイチ、袋を持っている。

オキヤク また汚しちゃったんだ。

キヤクイチ うん。

オキヤク 汚すなって言われてたのに。

キヤクイチ 仕方ないよ。着ていけばいつかは汚れるよ。

オキヤク 派手に汚しちゃって。(袋を覗いて)何をどうすればそんなに汚れるのよ。

キヤクイチ いろいろあるんだよ。

オキヤク さすがにそれは着れないわね。何より見た目がやばいわよ。

キヤクイチ うん、これはやばい。しかも全然取れない。

オキヤク どうするの？

キヤクイチ どうするって、行くしかないよ。あの店。

オキヤク でも一万円よ。

キヤクイチ 一万円払う価値はあると思うよ。きっと落としてくれる。

オキヤク じゃあ、明日行く？

キヤクイチ そのつもり。



オキヤク 待ってるのもつらいし、また裏技使う？

トオチヤン (声のみ) 今日は使わないでくれ。

オキヤク どうして？

トオチヤン 今日は疲れた。ゆっくり寝かせてくれ。頼む。

オキヤク 分かりました。じゃあ、今日は裏技使いません。

トオチヤン 悪いな。

オキヤク 構いませんよ。ゆっくり休んでください。

トオチヤン ああ、おやすみ。

オキヤク おやすみなさい。

キヤクイチ オキヤク。

オキヤク 何？

キヤクイチ お前はこういうポジションなんだ。

オキヤク ポジション？ポジションって何？

キヤクイチ いや、まあいいけどさ。

オキヤク ほら、私たちも帰って寝ましよ。

キヤクイチ うん。じゃあまた明日、オキヤク。

オキヤク またね、キヤクイチ。

キヤクイチ・オキヤク、帰る。

ゆっくり夜へ。

ゆっくり夜が明ける。

ゆっくり空が晴れ渡る。

三人、ゆったりと準備をする。

トオチヤン、立て看板を「営業中」に。

営業開始。

電話が鳴る。

カアチヤン はい、クリーニングのミタライです。

キヤクイチ あ、キヤクイチです。

カアチヤン ああ、この前はどうぞも。

キヤクイチ あの、もうやっていますか？

カアチヤン やっておりますよ。

キヤクイチ じゃあ、これからうかがってもいいですか？

カアチヤン どうぞどうぞ。ぜひお越しください。

キヤクイチ ありがとうございます。今うかがいます。

カアチヤン お待ちしております。よろしくお願いたします。失礼い

たします。(電話を切る) ほら、いらっしやい。

キヤクイチ あっ、はい。行くぞ、オキヤク。

オキヤク うん。

キヤクイチ・オキヤク、クリーニング店へ。

カアチヤン いらっしやい。

トオチヤン らっしやい。

キヤクイチ また汚してしまいました。

カアチャン いいんですよ。着ていればいつかは汚れます。ほら、見せてくださいな。  
キヤクイチ はい。

キヤクイチ、服を取り出す。  
真っ赤。

カアチャン うわ。

トオチャン 何だそれは。

センタ ケチャップだろ？

トオチャン・カアチャン え？

センタ そうなんですよね？

キヤクイチ そうです。彼の言うとおりで。

カアチャン 何ですぐ分かるの？

センタ 何でって、ケチャップの匂いがプンプンしてるから。

カアチャン え：（匂いを嗅ぎ）あ、確かにケチャップだわ。

トオチャン 見た目のインパクトが強すぎて嗅覚がバカになっていた。

キヤクイチ 料理中にドバツてケチャップこぼしちゃって。

センタ 何をどうすればそうなるんだ。

オキヤク これ、落とせそうですか？

トオチャン センタ、どうだ？

センタ 別に問題ないよ。ちよつと汚れてる面積が広いだけで。

トオチャン それでこそ十五代目だ。

キヤクイチ じゃあ、お願いしてもいいですか？

カアチャン いいですよ。今回は一万円ですけど。

キヤクイチ それを承知でお願いします。

カアチャン では、お預かりいたします。あ、料金は後払いで構いませんよ。

キヤクイチ あ、はい。じゃあ、よろしくお願いします。

カアチャン 終わったら電話しますね。

キヤクイチ はい。じゃあ、僕らはこの辺で。行くぞ、オキヤク。

オキヤク うん、じゃあお願いします。

カアチャン ありがとうございます。

トオチャン どうもー。

キヤクイチ （帰りながら）よかった。

オキヤク 捨てればいいのに。

キヤクイチ そういうことじゃないんだよ。一点ものだぞ。一点もの。

歴史があるんだよ。捨てられるわけじゃないじゃないか。

キヤクイチがそれでいいならいいんだけど。

まさかあれだけ飛ぶとは思わなかった。

オキヤク ケチャップ？

キヤクイチ あ、うん。

オキヤク そういうときもあるんじゃない？

キヤクイチ まあ、またきれいになって戻ってくれば、また着られる。

オキヤク なんかキヤクイチ、ワクワクしてない？

キヤクイチ ちよつとだけ。クリーニングを頼んだだけなんだけどな。  
オキヤク さすがに落ちないと思うけどね。そしたらくじ引きね。  
キヤクイチ うん。

オキヤク もし百万円が当たったら、指輪買ってちょうだい：なんて  
ね。

キヤクイチ いいよ。

オキヤク え？

キヤクイチ もし百万当たったら、指輪を買おう。俺からの婚約指輪だ。

オキヤク キヤクイチ。

キヤクイチ まあ、汚れが落ちなかったらって話だけどな。

オキヤク まあね。でもうれしい。

キヤクイチ 連絡を待とう。

オキヤク うん、待つわ。いつまでも待つわ。

キヤクイチ ん？なんか聞いたことあるようなフレーズ。

オキヤク 気のせいよ。

トオチヤン それにしてもひどい汚れようだ。

カアチヤン 私びっくりしちゃった。

センタ なんじゃこりやあつて感じだよね。

カアチヤン センタ例えが古いわね。古(いにしえ)レベルじゃないの。

センタ 古レベルって言葉生まれて初めて聞いたよ。

トオチヤン これはカモメのトマトケチャップだな。

センタ そこまで分かるの？

トオチヤン 長年の勘だ。

カアチヤン 的中率0パーセントのやつね。

トオチヤン うるさい。

センタ まあ、大丈夫でしょ。なんとかするよ。

カアチヤン よろしくね。あ、タンナカさんのドレスは？

センタ 昨日のうちに洗っておいたよ。

トオチヤン 俺も昨日のうちに仕上げておいたよ。

カアチヤン じゃあ、電話しても大丈夫ね。

センタ・トオチヤン いいよ。ん？

カアチヤン 息もぴったりね。

センタ・トオチヤン そんなことないよ。ん？

カアチヤン やっぱり息ぴったりね。

センタ・トオチヤン うるさいな。さあ、やるぞやるぞ。ん？

カアチヤン さ、電話かけなきゃ。

三人、仕事へ。

センタ、一人語り。

センタ トオチヤンの勘は当たったことが一度も無い。カアチヤン

も俺も期待していない。期待はとうの昔にみじん切りして  
しまった。トオチヤンの勘が当たろうが外れようが、世界  
は何も変わらない。

タンナカ ごめんください。

カアチャン あらタンナカさん早かったわね。世界最速ね。  
タンナカ ちようどのあたりを通りかかったものですか。  
カアチャン そうでしたか。今お持ちしますね。

カアチャン、ドレスを渡す。

タンナカ まあなんということでしょう。あんなにベツタリとこびり付いていたカレーのシミが、何もなかったかのようにきれいになくなっていてはありませんか。あんなにベツタリとこびり付いていたカレーのシミが、何もなかったかのようにきれいになくなっているではありませんか。

カアチャン これが私たちの仕事ですから。

タンナカ さすがです。はい、一万円。

カアチャン 毎度ありがとうございます。

タンナカ あ、そういえば、今日これから雨が降ってくるらしいですよ。

カアチャン こんなに晴れてるのに？

タンナカ 確か、ゲリラ何とかがっていうものが来るらしくて。

カアチャン ああ、何とか豪雨ね。

タンナカ そうそう、ゲリラ何とかが豪雨。

トオチャン 今日は降らないよ。

センタ 根拠は？

トオチャン 長年の勘だ。

カアチャン じゃあ気を付けなきゃね。

トオチャン おい、何だよそれ。

タンナカ ま、そういうことなので気をつけてくださいね。

カアチャン わざわざありがとうございます。

タンナカ じゃあね。

センタ・トオチャン どうもー。ん？

カアチャン やっぱり息びったり。さて、仕事仕事。

三人、仕事に戻る。

センタ、一人語り。

センタ トオチャンの勘はこの先も当たることはないだろう。当たらうが外れようが世界は変わらない。世界はポーカーフェイスを貫いて平然としているんだ。俺にはどうすることもできない。ひとつできることがあるとすれば、それは、祈ることぐらいだ。

センタ、手を合わせる。

転換。

雨が降り出し、トオチャン、立て看板を「また明日」にして、営業終了。夜へ。

夜が明け、雨が止む。

トオチャン、立て看板を「営業中」にして、営業開始。仕事の風景。

カアチャン、トオチャンとセンタに休憩を促す。

センタは拒み、キヤクイチの服を洗い続ける。

トオチャン・カアチャン、休憩に入り、ストップ。

センタは洗い続ける。

その中をキヤクイチ・オキヤクが仲睦ましく横切る。

センタは洗い続ける。

トオチャン・カアチャンが仕事に戻る。次第に日が暮れ、営業終了となるが、センタはやめようとしめない。

トオチャン、センタの肩をポンと叩く。

センタ、やめようとしめない。

トオチャン、センタの手を止めようとするが、センタは止めない。

トオチャン、力づくでセンタの手を止め、立ち上がらせる。

トオチャン、センタの顔を見て、顔を横に振る。

センタ、意気消沈で帰る。

センタ

（帰りながら）俺はこのあと72時間同じ服を洗い続けることになる。それでもケチャップは訪問販売のようになつく服に残っていた。多分このケチャップはカモメじやない。トオチャンの勘は今回も見事に外れた。そんなことはどうでもいい。俺の手は、何かを間違えたのかもしれない。もしくは…歴史の重石に潰されたのかもしれない。

トオチャン・カアチャン、センタがいなくなったのを確認する。

二人、見つめあう。

カアチャン、電話をかける。

しかしその電話はカアチャン個人用のスマートフォン。

カアチャン あ、もしもし…

転換。

トオチャン、立て看板を「また明日」にして、二人、帰る。夜へ。

ゆっくり夜が明け、ミタライ家、準備をする。

トオチャン、立て看板を「営業中」に。

センタは落ち込んでいる。

カアチャン 電話するわよ。

センタ うん。

トオチャン そういうときもある。

センタ うん。

カアチャン 説明は私がするから安心して。それも私の仕事。

トオチャン そう落ち込むな。

センタ うん。

カアチャン (電話をかけ) あ、キヤクイチさん? どうも、クリーニングのミタライです。あの、お預かりした服なんですけれど、申し訳ございません。若干の汚れが残ってしまいました。ほんとに申し訳ございません。はい、服をお返しいたしますので、あ、あとは、一度お話したくじ引きもご用意いたしますので、ええ、お待ちしております。はい、申し訳ございません。よろしくお願いいたします。(電話を切り) さて、もう一回電話しなきゃ。

センタ え、どこに?

カアチャン センタは気にしなくていいの。

カアチャン、個人用のスマートフォンで電話をかける。  
ひそひそ声。

トオチャン センタ、この仕事始めて何年になる?  
センタ 今年で四年目。  
トオチャン 俺は三年目のときだったな。  
センタ 何が?  
トオチャン お前はいつもどおりに仕事してる。  
センタ 分かった。

カアチャン、電話が終わる。

カアチャン この電話は緊張するわね。  
トオチャン 何回もするものじゃないからな。で、どうだった?  
カアチャン やっぱりだった。  
トオチャン そうか。  
カアチャン 世界最速で準備するって。  
トオチャン さすがだな。じゃあ、俺もいつもどおりに仕事するか。  
カアチャン そうね。センタもいつもどおりにね。  
センタ うん。

三人、仕事に戻る。

タンナカ ごめんください。

タンナカ、ドレスを着ている。

カアチャン あらタンナカさん、いらっしやい。おめかししちゃって今日はどちらへ?

タンナカ 今日?今日はパーティなんです。

カアチャン あら、パーティだなんて素敵だわ。

タンナカ でも殿方様がまだ待ち合わせの場所に来ないんですよ。

カアチャン こんな素敵なレディを待たせるだなんて。ちなみにどこで待ち合わせなんですか?

タンナカ  
実はここなんですよ。ご存知ないかもしれませんが、このクリーニング店、巷で人気の待ち合わせスポットになってるんですよ。

カアチャン  
そうなんですか？初耳だわ。

タンナカ  
ここで待っててもよろしいですか？

カアチャン  
どうぞどうぞ。お得意様ですから。

タンナカ  
ありがとうございます。センチさんこんにちは。

センチ  
こんにちは。

タンナカ  
今日も頑張ってますね。

センチ  
どうも。

タンナカ  
どうですか？汚れが落とせなかったときの気持ちは？

センチ  
え？何で知ってるんですか？

タンナカ  
私でも分かります。今のセンチさんの表情、とても似ています。あのときの十四代目に。

センチ  
あのとき？

トオチャン  
その話はいいいじゃないですか。

タンナカ  
あらあら、ごめんなさい。

カアチャン  
そろそろ来るころかしら。

タンナカ  
どうでしょうね。こればかりは分かりませんから。

カアチャン  
そのためのくじ引きなんですけどね。

キヤクイチ・オキヤク、やってくる。

キヤクイチ  
あの：

カアチャン  
あ、いらつしやいませ。

キヤクイチ  
服、受け取りに来ました。

カアチャン  
お待ちしておりました。このたびは申し訳ございませんでした。

センチ  
すいませんでした。

タンナカ  
あら、いつかのお二人さん、どうもこんにちは。

キヤクイチ  
あ、こんにちは。

オキヤク  
こんにちは。

タンナカ  
あの、お二人さんはアレ？夫婦？カップル？そうじゃなければ何ップル？

キヤクイチ  
今はカップルです。近いうちに夫婦になります。まあすばらしい。おめでとうございます。

タンナカ  
ありがとうございます。あの、まだですか？

カアチャン  
もう少々お待ちくださいね。  
(キヤクイチをまじまじと見て)あなた。

タンナカ  
何ですか？

センチ  
私とパーティに行く殿方様じゃありませんか？

キヤクイチ  
はい？

オキヤク  
ちよつと何？パーティって。

キヤクイチ  
知らないよ。ちよつと、何言ってるんですか。

タンナカ  
ずっと待ってたんですよ。

キヤクイチ いや、人違いだと思います。

オキヤク そうよ。人違いよ。

タンナカ いいえ人違いなんてあるものですか。だってこの招待状の宛名見てください。

キヤクイチ (招待状を見て) 招待状、キヤクイチ様：何だこれ。

オキヤク キヤクイチ、説明してよ。何この招待状。全然聞かされてない。

キヤクイチ だから何も知らないって。

タンナカ 手を触ると分かるんです。あなたが私のパートナーのキヤクイチさんかどうか。ほら、ちよつと。

キヤクイチ 絶対違うと思いますけど。

オキヤク そうよ。絶対違うわよ。

キヤクイチ、手を差し出す。

タンナカ、キヤクイチの手に触れる。

その一瞬、キヤクイチの小指を手の甲側へ、グイっと曲げる。

キヤクイチ、痛みで倒れる。

キヤクイチ 痛って。てめえ何するんだこのやろ：あ。

オキヤク ちよつとキヤクイチにいきなり何するのよ。

タンナカ あなたはちよつと黙っててください。キヤクイチさん、あなたを傷害容疑で逮捕します(手錠をかける)。

オキヤク は？あんた何言ってるのよ。

タンナカ 黙っててくださいと言ったはずです。

キヤクイチ ここまでか。まさかほんとにいるとは思わなかった。

オキヤク キヤクイチ？

センタ 何が起きているんだ、俺の目の前で。

トオチャン しっかり見てろ。

カアチャン お待たせいたしました。はい、この服お返しいたします。

汚れが残っている服を見せる。

カアチャン ケチャップの汚れは取れたんですけど。

センタ いや、取れないよ。まだ付いてる。

カアチャン ケチャップは取れたのよ。

センタ だから取れないでしょ。

カアチャン この血液だけはどうしても取れなくって。

センタ え？

カアチャン この店ね、血液だけはどうしても落とせないの。

トオチャン 俺も、先祖もずっと研究してきたが、どうしても無理だった。

タンナカ でも、そこに私の先祖が目を付けました。

トオチャン 俺たちが落とせないもの、血液が残ったらすぐにタンナカ

さんの家に連絡することにしてるんだよ、昔から。

センタ 何で隠してたんだよ。



トオチャン  
カアチャン

先祖代々こうしてるからだよ。それだけの理由だ。  
あなたの先祖もいいところに目を付けたわね。もちろん、  
あなたもさすがよ。八代目ドレス刑事。

タンナカ

ありがとうございます。

オキヤク

親父から聞かされてはいたが、ほんとにいたんだな。

タンナカ

はじめまして、ドレス刑事です。

センタ

ドレス刑事？八代目？何ですかそれ。

カアチャン

普段はただの主婦。でも、何かあったときには代々伝わる  
ドレスを身にまとって難事件の捜査に挑むのよ。

タンナカ

説明もありがとうございます。

センタ

いや、何でドレスなんですか？

タンナカ

何ででしょうね。昔からのしきたりだから。それだけのこ  
とです。ちよつとその服よく見せてください。(服の裏地を  
見て)あれ、この服もしかして。

カアチャン

どうしたの？ドレス刑事。

タンナカ

キヤクイチさん、あなたもしかして、アラウンドワールド  
の人？

センタ

アラウンドワールド？

オキヤク

話がよく分からない。何が起きてるの？私の目の前で。

キヤクイチ

：ああそうだよ。俺はアラウンドワールド六代目店長、キ  
ヤクイチだ。オキヤクは何も関係ない。

タンナカ

そうですね。オキヤクさんは何も知らない。

センタ

あの、アラウンドワールドって。

タンナカ

簡単に言えば、裏社会の便利屋ってところでしょうか。ど  
んなに悪いことだろうとお構いなし。依頼があれば何でも  
引き受けてしまうんですよ。

オキヤク

話に全然付いていけない。何が起きてるの？私の目の前で。  
ずっと探していました。私も、私の先祖も。でも追い詰め

タンナカ

られなかつたんです。キヤクイチさん、あなたの先祖は丁  
寧に、綿密に裏の世界を渡り歩いていました。それはもう  
見事なものでした。こんなに汚しちやって：あなた、かな  
り大ざっぱですね。

キヤクイチ

あんたたちに言われたくないよ。

タンナカ

はい？

キヤクイチ

あんたたちのやってることだって十分大ざっぱだろうが。  
こんなメチャクチャな世界が成立するわけないんだよ！あ  
んたたちのやってることだって十分大ざっぱなんだよ！こ  
んなメチャクチャな世界が成立するわけないだろうが！覚  
えておけ。こんな世界、俺がいつかきれいさっぱり洗い流  
してやる

タンナカ

覚えておきましょう。でも、この物語が終われば、あなた  
の野望も、私たちの生活も、すべて終わってしまいます。

オキヤク

きれいさっぱり。

キヤクイチ

ごめんなオキヤク。いろいろ隠してて。もうちよつとで夫

オキヤク 婦になれるところだったんだけどな。そんなことはないの、私。待つわ。この物語が終わったとしても、ずっと待ってる。キヤクイチの大ざっぱなところに私、ほれたのよ。きつと。

キヤクイチ ごめん、オキヤク。

タンナカ さあ、そろそろパーティの時間です。オキヤクさん、あなたが無関係なのは知っています。でも、聞きたいこともありますし、一緒に来てくれますか？

オキヤク はい。

タンナカ、キヤクイチを連れて行く。

オキヤク 私の世界が、洗い流された。きれいさっぱり。

オキヤク、後を追う。

カアチャン オキヤクさん、ちよつと待って。

オキヤク 何ですか？

カアチャン はい。

カアチャン、くじ引きを出す。

カアチャン くじ引き、やっていってよ。

オキヤク いや、今はそんな気分じゃ：

カアチャン いいからいいから。ほら。

オキヤク でも、私がクリーニング頼んだわけじゃないですから。

カアチャン それでもいいのよ。キヤクイチさんの代わりってことで。ね？

オキヤク 分かりました。

オキヤク、くじを引く。

オキヤク はい。

オキヤク、引いたくじをカアチャンに渡す。

カアチャン あ、これ。特賞だわ。百万円よ。

オキヤク え？

カアチャン おめでとう！

トオチャン すごいな。千分の一だぞ確率。

オキヤク ええ？

カアチャン ちよつと待っててね。今持ってくるから。

オキヤク え？ああ：はい。

カアチャン、封筒を持ってくる。

カアチャン はい。  
オキヤク いや、でもこれは受け取れないですよ。  
カアチャン いいのよ。  
オキヤク いや、いいのよって言われてもこれは…  
カアチャン いいんですよ。昔からやってることですから。それよりも、そのお金、キヤクイチさんが帰ってきたときのためにとっておいたら？って、余計なお世話だけどね。

オキヤク ほんとに、受け取ってもいいんですか？  
カアチャン ええ、どうぞ。

オキヤク じゃあ、お言葉に甘えて、いただきます。なんか、すいません。

カアチャン いいのよ。また何かあったらいらっしやい。一緒にロマンステイック食べましょ。

オキヤク はい。ありがとうございます。じゃあ、行ってきます。

カアチャン 気をつけてね。  
オキヤク はい。

オキヤク、後を追う。

カアチャン ああ緊張した。

トオチャン これは何回やっても慣れないな。心臓に悪い。

カアチャン ちよっとお茶買ってくるわ。

トオチャン 頼む。

カアチャン、お茶を買いに。

センタ、呆然としている。

トオチャン どうだ、まだドキドキしてるか？

センタ うん。

トオチャン そうか。まあ仕方ないな。初めてのことだし。落ち着くまでちよっと休め。俺は仕事に戻るぞ。

センタ うん。

トオチャン、仕事に戻る。

センタ、一人語り。

センタ 俺は何に相づちを打っていたのだろう。トオチャンの声は俺の頭に寄り道することなく耳から耳へと抜けていった。

俺はただ、目の前の洗濯物を洗っていた。そんな俺の手は、傷つけられた誰かの痛みをも洗い流そうとしていたのか、きれいさっぱり。でも、できなかった。痛みを洗い流すことは俺にはできなかった。あの服に残った痛みは、誰にも

洗い流すことはできない。お茶買ってきたわよ。はい。

カアチャン お茶買ってきたわよ。はい。

トオチャン 悪いな。  
カアチャン はい、センタ。  
センタ あっ、ありがとう。  
カアチャン さて、私も仕事仕事。

カアチャン、電話帳を開く。

センタ お茶の冷たさが、俺の頭を一気に冷やした。

センタ、洗濯を始める。

カアチャン、ふと空を見上げる。

カアチャン ねえセンタ。

センタ 何？

カアチャン 今日もいい天気ね。

センタ (空を見上げ) うん、いい天気だ。雲ひとつ無い青空。

カアチャン 今日はきつとどこもかしこも雲ひとつ無い青空よ。この青

空を、世界中の人が見上げていると思うの。

センタ うん、そうかも知れないね。

カアチャン 空ってひとつだから。

センタ うん、ひとつだもんね。空って。

カアチャン センタも大人になったわね。

センタ なんだよいきなり。

カアチャン この短い上演時間の間に。

センタ それは言うなよ。なんか覚めちゃうだろ。

カアチャン いつかは覚めるわよ。

センタ カアチャン。

カアチャン まあ、覚めてもセンタクはしなきゃいけないんだけどね。

センタ うん。

カアチャン センタ、これから何を選ぶ？

センタ 選ぶ？

カアチャン あ、間違えた。センタ、これから何を洗う？

センタ 何をもって言われても：とりあえず、ここにあるのを洗わな

きゃ。

カアチャン そうね。

センタ うん。

カアチャン トオチャン、センタ大人になったと思わない？

トオチャン どうだろうね。

カアチャン 十四代目センタの目にはどう映る？

トオチャン 俺はもうセンタじゃないよ。ここに十五代目センタがいる。

カアチャン まだまだ未熟だけだな。

センタ 分かってるよ。

トオチャン でもまあ、それっぽくはなってきたんじゃないか。

センタ トオチャン。

トオチャン センタ。

センタ 何？  
トオチャン 今度アイロンのかけ方教えてやるよ。  
センタ え？いいの？  
トオチャン 早く一人前になってもらわないとな。  
センタ トオチャン。  
トオチャン ほら、早く洗濯しろ。たまってるぞ。  
センタ うん。  
カアチャン さてと、私も電話かけなきゃ。

三人、仕事に戻る。

センタ、タライの中にあるTシャツを一枚取り出す。

そこには「完」の文字。

センタ、そのTシャツを洗う。

ゆっくり暗転。

## エピローグ

雨の音。

クリーニング店の三人はいない。

ベンチにオキヤクが傘を差して座っている。

オシヤレな服を着ている。

雨が少しずつ止む。

雨が止む。

オキヤク、差していた傘を閉じる。

オキヤク、空を見上げる。

オキヤク あっ、青空。

ゆっくり暗転。 幕。